

第8回静岡国際オペラコンクールが、11月11日から19日までの9日間にわたり、アクトシティ浜松大ホールで開催されます。

夏休みは楽しく過ごせましたか？中学生も高校生も、3年生にとってこの時期は、将来を決める大切な時かと思えます。コンクールに臨むオペラ歌手も、同じような気持ちでこの夏を過ごしたことでしょう。皆さんの夏休みと同じように、各地のオペラ劇場の多くが8月はお休みし、9月から始まる新しいシーズンの準備をしています。また、ザルツブルクやバイロイトなど、有名な音楽祭が開催されるのも8月が中心です。

ちょっと特殊な第2次予選

オペラコンクールの第2次予選ってちょっと特殊なんです。コンクールの応募要項には「第2次予選自選役リスト」というものがあります。出場者は、このリストから、自分が歌う「役」を選びます。例えば、「ロミオとジュリエット」というオペラのジュリエット役を選んだとします。通常オペラ公演には登場人物がたくさん出てきますが、コンクールでは1人で演じなければなりません。ロミオがその場にいるように愛をささやき、ロミオの死を嘆き自ら命を絶つ。完璧に歌える歌唱力だけではなく、演技力・表現力・経験も問われる難易度の高い審査です。そんな中にも、強い味方がいます。それは、一緒にコンクールのステージに登場しているピアニストです。詳しくは、豆知識を読んでみてください。



(第7回コンクールの第2次予選で、熱演を繰り広げ、2位に入賞した韓国のユン・キフンさん)

オペラ豆知識 その3「ピアニスト」

オペラコンクールのピアニストは、ピアノを完璧に弾けるだけではなく、声楽の指導もできるんです。通常オーケストラ伴奏で行うオペラですが、練習のときはピアノ伴奏です。ヨーロッパなどの歌劇場には、「コレペティトゥーア」と呼ばれるオペラの伴奏をするピアニストがいます。このコレペティトゥーアは、ピアノでオーケストラの音を表現します。これはホルンの音、これは弦楽器というような細部まで知っています。また、歌詞の指導もします。少なくとも、3ヶ国語くらいの発音指導ができます。歌手の相手役を務めながら、デュエットの練習をすることもあります。コンクールの2次予選でも、ピアノを弾きながら、出場者の相手役を担当している場面に出会えるかもしれませんね。



(第1回コンクールからピアニストを務める村上尊志さんと、第7回コンクールで三浦環賞を受賞した小堀勇介さん)